

「福祉に森ができること～作業所と一緒に行う森からの創造～」

(NPO 法人 MORIMORI ネットワーク／連携：「あらかわモデル」創造プロジェクト) (2016年3月)



～作業所と一緒に行う森からの創造～



NPO 法人 MORIMORI ネットワーク
連携：「あらかわモデル」創造プロジェクト



苗木を育てることが生き甲斐につながる

進和学園では、宮脇昭先生(横浜国立大学名誉教授)との出会いから「いのちの森づくり」＝「その土地本来の木による本物の森づくり」を始めました。机に向かって作業が苦手な知的障がい者の人たちは、土に触れ、水をやり、雑草をとり、苗木を育てる仕事に生き生きといていねいに取り組み、苗木も元気に育ちます。また、苗木の販売や「森づくり」に係わることで工賃にもなります。「いのちの森づくり」を始めて約 10 年、苗木の出荷本数は間もなく 20 万本に達します。森づくりの活動は学校、保育園などにも広がっています。



ポット苗を持って



湘南国際村での植樹



丁寧に苗木を育てます



宮脇昭先生とともに

社会福祉法人進和学園&株式会社研進 神奈川県平塚市万田 475 番地

福祉が森にできること

福祉が森にできることは3つある。ごく小さな森を地域の人々と連携しながらになるが、森を守ること、森に人を呼ぶこと、森を賑わすことだ。高齢化によって森を管理できない地域は、福祉作業所と連携して利用者さんを森に連れて行き、管理の仕方を指導してみてもいい。それを機に支え合おうとする人々が集まり、ものづくりをしてみようとか、イベントをしてみようかといった話も出て賑わってくるのではないだろうか。

福祉作業所は全国に1万箇所以上あり、多くはそこで作業する障がい者の工賃(給与)が安すぎる悩みを抱えている。しかし中には廃れゆく伝統工芸や民芸、職人技を継いだり、田畑を守る作業所もある。地域への貢献ができているのだ。ゆっくりでもコツコツと同じ作業を繰り返すことができる障がい者は多い。力仕事を厭わずできる人、独創的なものづくりをする人など、特性さえ活かせば、効率化ばかり求める現代社会とは対極の古き好き暮らしを取り戻す仕事も、森を守る仕事にも、取り組むことができるはずだ。

羽塚順子 (MotherNess Publishing 代表)